

なるほど、煩惱が似ると気が合うのか。by Twitter ♥6.2万

友達108人
できるかな

すごくしっくりきた

まず煩惱と
はなにか

正しいと思うところが合致している必要なんてないんだよね。だめだなあと思うところが似ているからこそ、互いに寛容になれるのであって。

煩惱がくさるほどあるからいろんな人と話できるんやな。煩惱も捨てたもんじゃないな。

気が合うというのは
煩惱の種類が
似ているということ

7月2日朝、住職が懇意にさせていただいている風の時編集部佐藤正美さんが慌てた様子でいらっしゃいました。「住職、昨日Twitterに掲示板の言葉を載せたら、一晩ですごい勢いの「いいね！」がついています。」

インターネットのSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)のひとつTwitterには気になる言葉をつぶやいたり写真を載せたりすることができます。そして、その投稿に賛同する方が「いいね！」と反応する機能がついています。つまり62,000人(7月20日現在)の方がこの言葉に共感し「いいね！」と反応されたということになります。

この言葉は九州大谷短期大学名誉学長の古田和弘さんのご法話の中で住職が印象に残っていた言葉です。煩惱とは煩い悩む心そのもの。悩みや苦しみを共感できるということが気が合うということだ、とこの言葉は伝えます。

もっとも一般的に「煩惱」というと「欲望」に近いニュアンスで捉えられることが多く、それはそれで「確かにそうかも」とおもしろく感じますし、こんなにたくさんの方が頷いているという現象にこうして言葉が広がっていくのかと感動したりもしました。

公開同朋会

七月十日(土)公開同朋会を行いました。来院を控えておられた方々の参加が増えてきて、以前の活気が戻りつつあります。有り難いことです。住職法話「煩惱とは」

煩惱の「煩」は身を煩わせること、「悩」は心を悩ませること。

親鸞聖人は自分は煩惱から決して離れられない、煩い悩みの備わった「煩惱具足の凡夫」だとおっしゃいました。どんな人も決して見捨てないという仏さまの願いのもとに「煩惱を断ぜずして涅槃を得る(不断煩惱得涅槃)」とも表現されています。煩惱を離れられない身のまま精一杯生ききっていく、煩い悩みによる悲しみや痛みを通して相手と出あっていくということなのでしょう。

前住職法話「信心について」

信心とは「知って受け容れる」という意味です。何を知るのか。仏に出遇って仏の願心を知る。そしてそのことを通して自分を知る。我が身が「自我いっばいの私であった」ということに気づかされ、そして「そんな私でいいのだ」と我が身を認め受け容れられるようになる。自分の宿業を受けとめて、迷わずに、他人と比較せずに生き抜いていく力をいただくこと、これが「信心を得る」ということです。

では「仏」とは誰か。それはお釈迦様を始めとし仏教を伝えてきた高僧、さらには自らの生を完結していかれた、私に生きるということをお教えてくださったすべての先人。この方々が諸仏となって私に生きるということ、命ということをお教えてくださるのです。



徳とく泉いずみ寺てら報ほう

No.0045

発行

令和3年7月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区

榴岡3-10-3

(022)297-4248

メールアドレス

tokusenji.sendai@gmail.com

[ai@gmail.com](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)



ホームページ

tokusenji-

sendai.com



Instagram

tokusenji.sendai



TOKUSENJI.SENDAI